

「晩秋の上高地紀行(7)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

現在上高地へは、松本、島々(しましま)、沢渡(さわんど)などからバスやタクシーで、全く歩かずに入れる。しかし昭和初期までは、島々から徳本峠(とくごうとうげ)を越えて、徒歩で入るしかなかった。



島々集落は、かつて信州側から上高地や穂高連峰への入口として栄えた。少し前までは、松本電鉄の終着駅もあったが、現在は廃止され、一つ松本寄りの「新島々駅」(しんしましまえき)までの運行である。島々から徳本峠経由で上高地に入ると、かなり健脚な者でも8~10時間は要し、丸一日がかりだった。現在はバスやタクシーで、わずか1時間ほどで行き着ける。



現在の上高地の中心地は、「上高地バスターミナル」付近である。そこから有名な「河童橋」までは、梓川沿いの遊歩道を10分ほど歩くだけだ。自転車でも走れそうな道だが、ここは徒歩のみの遊歩道だ。



梓川の本流に架けられた「河童橋」(かっぱばし)は、上高地観光のシンボリックな存在だ。この小さな吊り橋は、いつも観光客で一杯になっている。



橋の上からの景観は、「誰でも行ける場所」からの山岳景観としては別格中の別格だ。この風景だけを見て帰る団体も多い。この日も、どこかの修学旅行らしい高校生の100人近い団体が、橋を「占領」していた。ここから見える、奥穂、前穂、西穂などは、かつて一度は足下に踏んだ、アルプスの名峰ばかりである。



橋の反対側(梓川の下流側)には、特異な山容の独立峰が見える。活火山の「焼岳」(やけどけ)だ。噴煙こそめったに見せないが、時折白い噴気が見えた。